

数字でわかる！ データから見る医療のいまとこれから

CONTENTS

Q. 統計データから何がわかるのだろうか？	2
データからわかったことをどのように役立てる？	4
はじめに	6
この本の使い方	12

1章 データで読み解く医療と社会

Q. 日本の人口から何がわかるだろうか？	14
働ける人が減っていく？	16
ほかの国と比べても若い人の割合が低い？	17
Q. 窓口負担が少ない気がする お金はどこから出ている？	18
地方自治体別の補助がある？	20
そもそも国や自治体のお金ってどこからきたの？	21

Q. 医療にかかるお金は増えている？	22
高齢化の影響が大きい？	24
国に入ってくるお金は増えている？	25
COLUMN 薬の値段はどうやって決まる？	26
Q. 病院の患者数が減っているのはどうして？	28
都道府県によって何がちがう？	30
全国で同じように起こっている動きはある？	31
Q. 在院日数を減らして問題は起こらないの？	32
地域包括ケアへの取り組み	34
Q. 医師や看護師が足りないと聞くけど本当なの？	36
医師の勤務地がかたよっている？	38
診療科でも差がある？	39
Q. 必要としている人が多いし介護職は増えているよね？	40
介護職員が足りていない？	42
介護職員は今後も増えていく？	43
COLUMN 介護現場の外国人	44



2章 データで読み解く医療従事者の今

Q. 医師・看護師になるのは大変なの？	46
国家試験って難しいの？	48
お金はどれくらいかかるの？	49
Q. 医師や看護師の給料はほかの業種より高いの？	50
同じ医師のなかでも収入に差はあるの？	52
同じ看護師のなかでも収入に差はあるの？	53
COLUMN 歯医者はコンビニより多い!?	54
Q. 医師の労働環境ってどうなの？	56
労働時間は増え続けるっぽうなの？	58
仕事中に起きるトラブルは？	59
Q. 医師・看護師とくらべて介護の仕事はどうなの？	60
介護職員の離職率はどうなの？	62
介護職員の労働時間ってどうなの？	63
COLUMN コロナ禍で起きた医療現場の変化	64



3章 データで読み解く医療と健康

Q. 日本人はどんな病気になっているの？	66
循環器系の疾患が多いのは日本だけ？	68
どこにできた悪性新生物で死亡が多いの？	69
Q. 病気になりやすい人はどんな人？	70
喫煙が健康に与える影響は？	72
やせていれば健康でいられる？	73
Q. 平均寿命が延びているのはどうして？	74
子どもと高齢者が健康的になっている？	76
長生きしている高齢者は健康的に過ごしている？	77
COLUMN 進む医療業界のデジタル化	78
Q. 入院費っていくらくらいかかるの？	80
病床種類ごとの平均入院期間は短くなっている？	82
入院期間が減ると、入院する患者数は増える？	83
Q. 感染症ってどうすればさけられる？	84
日本の性感染症の実態は？	86
食中毒が起きやすいのはいつ？	87
Q. うちの家族も認知症になるのかな？	88
認知症患者の受け入れ先は？	90
認知症患者はこれからもっと増える？	91
さくいん	92
参考文献	95

この本の使い方

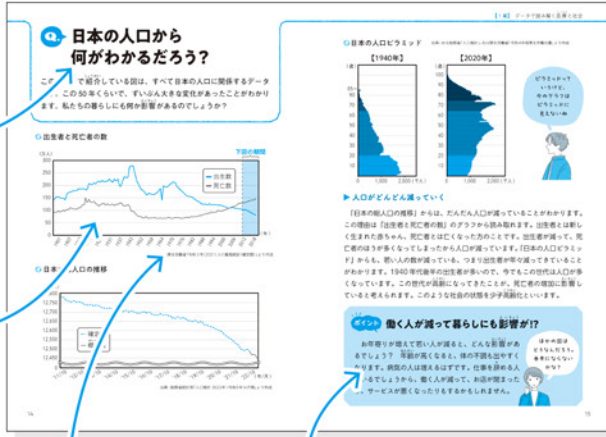
* この本の内容や情報は、製作時点(2023年6月)のものであり、今後変更が生じる可能性があります。

最初に問いをたてて、データをもとに考えていきます。みなさんも一緒に考えてみてください。

統計データを豊富に掲載。見やすくするために、もとのデータから簡略化している場合があります。

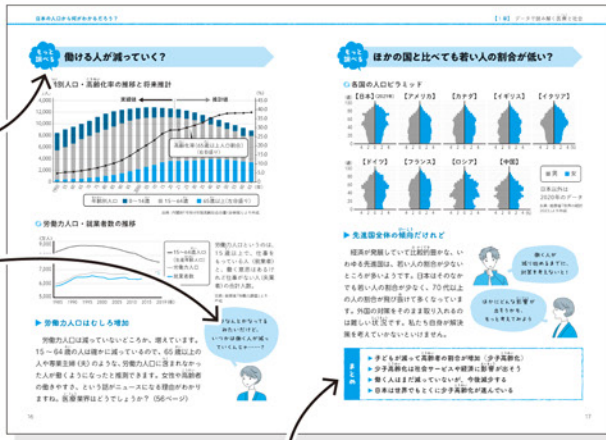
政府の統計データはオープンデータとして公開されているので、気になった情報があれば、出典を参考にインターネットなどからさらに調べてみましょう。

ポイントではここまでデータからわかることをまとめて、もっと調べたいデータについて考えています。



最初に立てた問いを考えるうえで役に立ちそうな、別の切り口のデータを見ていきます。

吹き出しのコメントを参考にして、みなさんも意見を出してみましょう。



問いを考えるうえで重要になりそうなポイントを整理しています。



1章

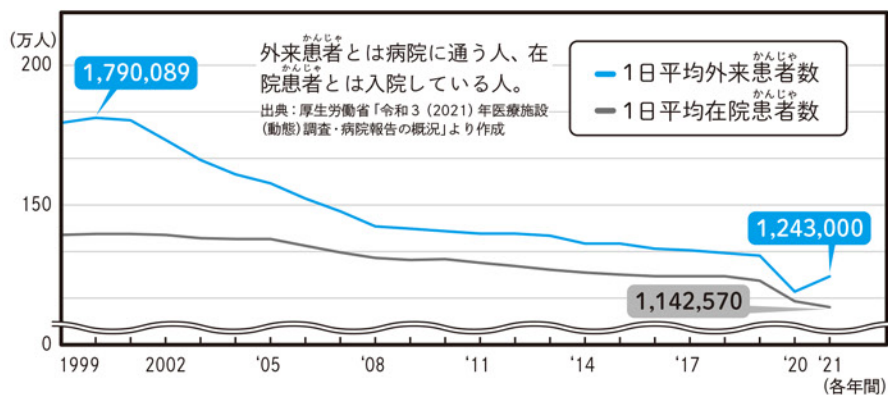
データで読み解く 医療と社会



Q. 病院の患者数が減っているのはどうして？

人口は減っているけれど、お年寄りは増えているという状況が見えてきました。病院や医療現場にはどんな影響が出ているのでしょうか？ 患者数の推移から、今後どうなっていくのかを考えていきたいと思います。

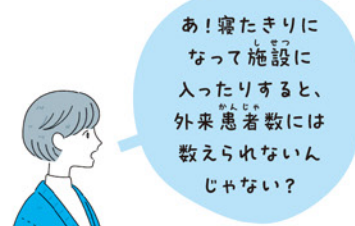
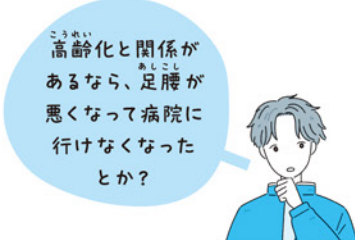
◎ 1日あたりの平均患者数の推移



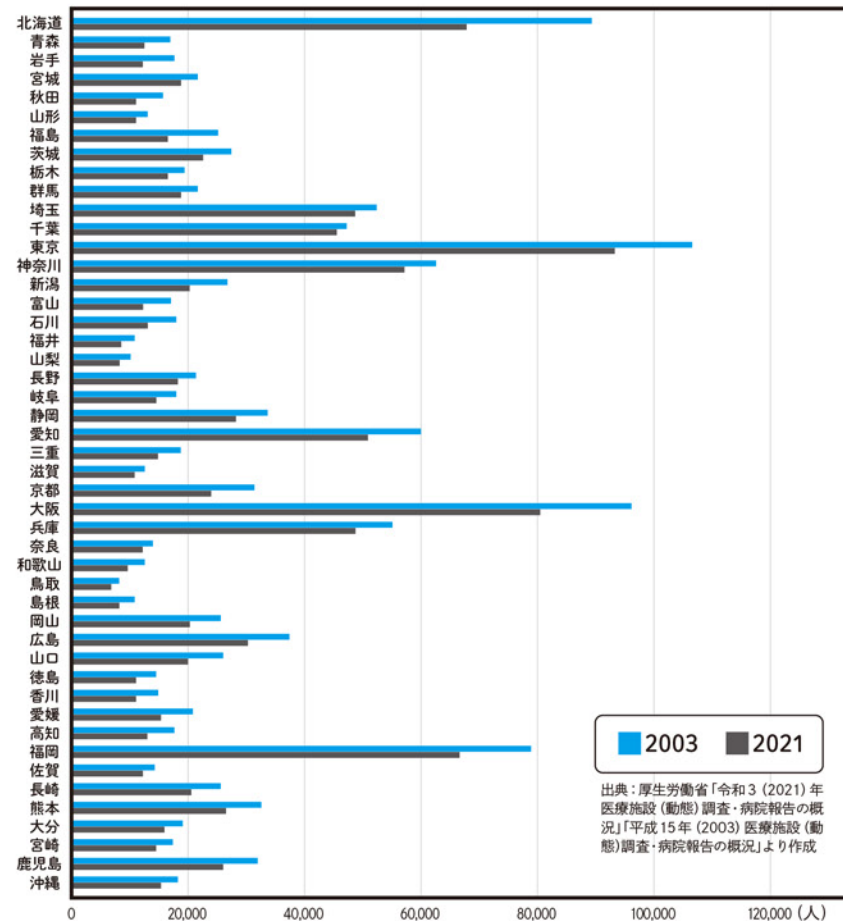
▶ 1日の患者数は減り続けている

2020年以降は新型コロナウイルスの影響があり変化が大きいのですが、それ以前は1日あたりの外来患者数・在院患者数のどちらも毎年減っていました。外来患者数については、とくに2000年代に大きく減っています。高齢化が大幅に進んだころなので、関係があるとも考えられます。

在院患者数についてはどうでしょうか。外来患者数が大きく減った時期にも、減り方はゆるやかです。右のデータを見ても、在院患者数はほとんどの都道府県で減っているようです。全国的に起こっていることが原因のようです。



◎ 都道府県別1日あたりの平均在院患者数



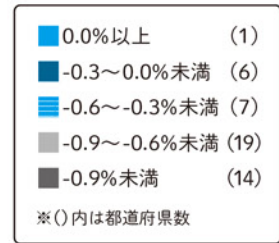
ポイント 在院患者数はなぜ減っている？

身動きがとれなくなって病院に通えなくなる、施設に入る、といったことが起これば、確かに外来患者数にはかぞえられなくなります。ただ、病院に通えないほど体調の悪い人が増えているのであれば、入院している人はむしろ増えそうなものです。なぜ在院患者数も減っていったのでしょうか。全国的に起こっている変化には、どんなものがあるでしょう。

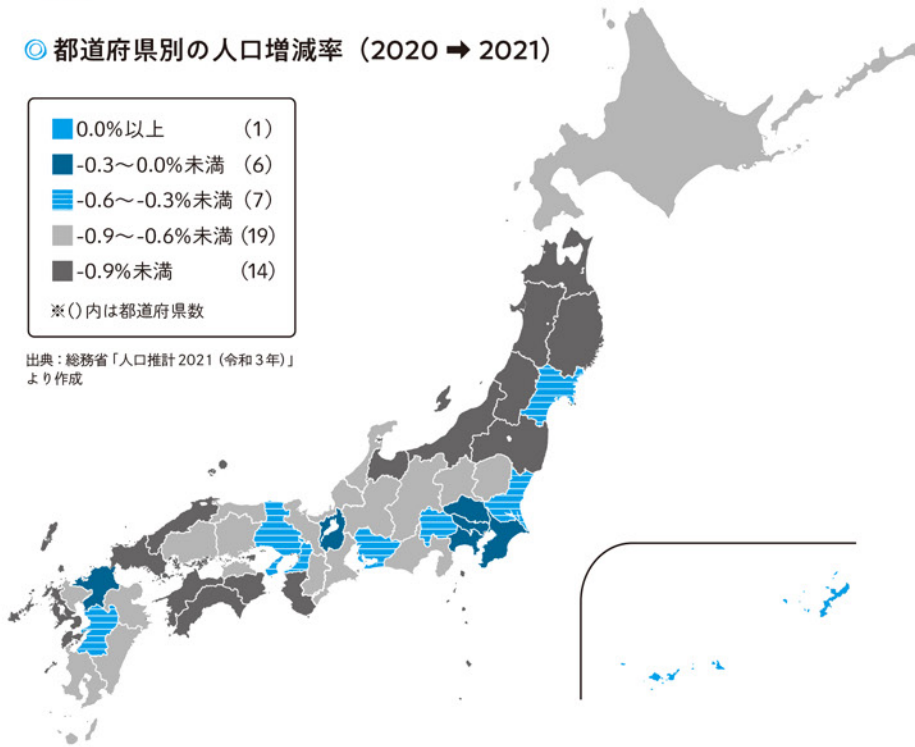


もっと調べる 都道府県によって何がちがう？

◎ 都道府県別の人口増減率（2020 → 2021）



出典：総務省「人口推計2021（令和3年）」より作成

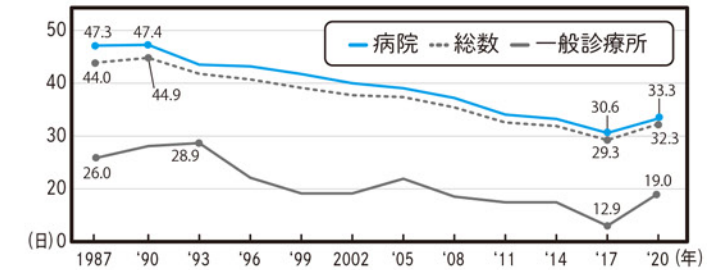


▶ 都道府県で人口の減り方がちがう

体調の悪い人が増える以上のペースで人口が減っている、ということは考えられるでしょうか。上の図を見ると、多くの都道府県で人口が減っています。増えているのは沖縄だけなので、ほとんど全国的な変化だといえそうです。ただし、東京は過去データによれば2020年までは増えていたので、新型コロナが関係している可能性があります。29ページの「都道府県別1日あたりの平均在院患者数」を見ると、上の図では人口のあまり減っていない東京都や福岡県などの都市部で大幅に在院患者数が減っています。山形県や佐賀県といった、人口が大きく減っているのにさほど在院患者数が減っていない県もあります。関係ないとまではいえませんが、ほかに、もっと大きな原因があるのではないのでしょうか。

もっと調べる 全国で同じように起こっている動きはある？

◎ 平均在院日数の推移



各年、9月1～30日に退院した患者の在院日数、2011年に関しては、福島県と宮城県の一部を除外。

出典：厚生労働省「令和2年（2020）患者調査の概況」より作成

▶ 在院日数が減っている

人口の増減にかかわらず、在院患者数が減っているということは、全国的な取り組みなどが影響している可能性があります。上の図で見ると、在院日数、つまり入院期間が短くなっています。データはのせていませんが、厚生労働省の「医療施設（動態）調査・病院報告」によると、「新規の」入院患者数は増えています。2003年調査では1日あたり38,158人でしたが、2021年には41,520人になっています。それでも入院中の人が減っているのは、1日あたりの退院患者数がそれ以上に増えているからです。日本の入院期間は諸外国よりも長いので、国の政策として在院日数の短縮と、病床数の削減が行われています。

新規の入院患者数が増えているということは、外来患者数が減っている原因のひとつとして、通院が困難になったり、施設でのケアに切り替えたということがあるのではないかと、という仮説とも矛盾しなくなります。お年寄りが入院した場合、そのまま介護が必要になる例は少なくないためです。実際に要介護者も増えています（40ページ）。

まとめ

- ▶ 1日あたりの外来患者数、在院患者数ともに減っている
- ▶ 外来患者数と在院患者数では減り方がちがう
- ▶ 在院患者数の減り方と人口の減り方は関係がうすい
- ▶ 在院日数が大幅に短くなっている